

新潟医療センターニュース

第42号

発行 新潟県厚生連労働組合新潟支部
発行責任者 澤 仁
発行 荻 葦

喫煙の害と禁煙外来のご案内



喫煙は、わが国のような先進国においては、運動不足、肥満や高血圧よりもさらに高率に死亡率を増加させる因子であり、禁煙は最も確実にかつ短期間に多くの重篤な病気を劇的に減らすことのできる唯一の方法であると言われております。一日二十本以上の喫煙により虚血性心疾患は一・七倍、肺癌は四・五倍、

胃潰瘍は一・九倍、肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患(COPD)を二・二倍に増加させると報告されています。また間接喫煙により、例えば夫が喫煙者の場合、妻の肺癌死亡率を一・九倍に増加させ、親の喫煙により赤ちゃんの突然死や子供の気管支喘息や肺炎・気管支炎・中耳炎等を増加させるといわれています。



前列阿部先生・大塚先生、後列外来看護師

これにより、公共の場での禁煙が普及し、特に保健・健康施設や医療機関においては、敷地内禁煙が普及してきました。ところで、いま喫煙されていない方でも、以前は吸っていたという方も多いと思われる(禁煙できず禁煙のきつ

かけは何だったのでしょうか？

喫煙後の口内の不快感、他人の煙草の不快感、あるいは病気をきっかけに等、いろいろだったと思いませんか。でも、たばこが悪いと解っているし、たばこを止めようと思っているけど、どうしても止められない方もいらっしゃると思います。それは「ニコチン依存症」という病気の可能性があります。二〇〇六年四月からの診療報酬改定により「ニコチン依存症」と診断された方々に対する禁煙治療が、保険給付の対象になりました。当院でも本年四月一日より施設基準を満たすことになり、四月五日より保険診療を開始します。禁煙にお悩みの方々にはぜひお勧めします。

なお、保険給付の対象となるには、詳細な要件が定められており、すべての方が保険給付の対象となるとは限りません。

【保険給付の対象となる方】

- ① 以下の①～④すべての要件を満たしている方
- ② ニコチン依存症に関するスクリーニングテストで「ニコチン依存症」と診断
- ③ 一日の喫煙本数×喫煙年数が二〇〇以上

病院探索

心臓リハビリテーション編



新しい装置で安心リハビリ

当院では、心筋梗塞や心臓・大血管の手術を受けた患者さんを対象に心臓リハビリテーション外来を開設しています。今回、新しい装置が導入されましたのでご紹介いたします。

心臓リハビリテーション外来では、運動療法としてストレッチャやエルゴメータ(自転車こぎ)を患者さん一人一人に合わせたプログラムで行っています。運動量は、きつすぎると体に負担になりますし、逆に軽すぎても効果は期待できません。

せん。現時点での体力を知り、どのくらい運動してよいかを知っていたくための装置が今回導入された心肺運動負荷装置です。

心肺機能を測定する装置で、心電図と血圧計、呼吸を分析するための専用マスクを着用し自転車をこいでいただきます。運動中にどのくらい酸素を吸って、二酸化炭素を吐いているかを測定することで心臓に負担をかけすぎない効果の良い運動量を調べることが出来ます。検査中は徐々に自転車のペダルが重くなっていきますが、足がきつい、呼吸が苦しい、胸が痛い等の症状が出たら手を上げてお知らせいただき、検査を終了します。

この新しい装置を用いることで適切な運動量を把握でき、患者さん一人一人に見合った効率の良い心臓リハビリテーションのプログラムを作成することができます。

臨床検査技師 小川 朋恵

- ③ 直ちに禁煙しようと考えている
- ④ 禁煙治療プログラム(十二週間・計五回)にわたって禁煙治療を受けることに同意

なお、以下の場合には「自由診療」となりますのでご注意ください。
・ 保険給付の対象となる要件に一つでも該当しない方
・ 他の保険医療機関ですでに健

康保険での禁煙治療を受けている場合であって、前回の治療より一年以上経過していない方

本院の禁煙外来は毎週金曜日午後(担当:大塚、阿部医師)より完全予約制にて行っています。

循環器内科部長

大塚 英明

(裏面もご覧ください)

社会人としての二年を 終えようとしています

人生の大先輩から 教わること



一年を振り返ると本当に短い一年でした。一昨年くらいから一年過ぎるのが早いと感じていました。どんどん加速してい

く印象です。このまま八十歳になつたら、どれだけ一年過ぎるのが早いんだろうかと疑問に思うことがあります。しかし私の周りにはこの疑問に対する答えを持つている人生の大先輩方が大勢いらつしやいます。そんな先輩方に日々理学療法士としてサービスを提供させていただく中で他愛ない話をすることもあり。ですがその先輩方が退院するという時に、いつもより

少し真面目な顔をして「先生にリハビリしてもらえてよかった。本当にありがとうございました。」と言ってもらえた時、やりがいを感じるとともにすごく嬉しいです。

この新潟医療センターのリハビリテーション科の先輩は本当に尊敬できる方ばかりです。その先輩達へ少しでも近づけるよう勉強に励み、患者さんからたくさん学ばせて頂き、そしてより一層レベルの高い理学療法を提供していければと思います。

理学療法士 水落 将平

コミュニケーションを 大切にしながら



看護師として働き始めて一年が経とうとしています。この一年は初めてのことや分からないことが多く悩んでばかりの毎日でした。振り返ってみるとあつという間に感じます。

最初のころは、先輩看護師に分からないことを聞きながら一日の仕事をおこなすことだけで精

職場紹介

放射線科

放射線科について ご心配があれば お気軽にお声がけを

昨年度より、読影医が常勤となり、放射線技師十二名、メディカルクラーク一名、受付一名の職員構成です。

前回の職場紹介から三年程経ち、半数以上スタッフが入れ代わりしました。施設改善により受付から各撮影室が近くなり、とてもわかりやすい配置となっております。

また機器更新に伴い、血管造影、MRI、R-1機器が新しくなり、検査内容の幅が広がりました。



個性豊かなスタッフ揃いの当科は、家庭的で穏やかな環境のもとでのびのびと、充実した仕事をしています。

放射線科にて様々な検査が行われますが、ご心配事等ありましたら、気軽にお声がけ頂き、安心して検査を受けて頂けると幸いです。
(記事/佐野)

者さんに安心してもらえるような看護師になつていきたいです。

看護師 大野さくら

編集後記

ようやく春らしくなってきましたね。今年の冬はインフルエンザが大流行し、マスクが手放せませんでした。少し落ち着いてきましたが、今度花粉、黄砂、PM2.5等まだまだマスクが活躍しそうです。体調を崩しやすいこの季節、皆様気をつけてお過ごしください。
(河村)

医療豆知識 ピロリ菌を 調べてみませんか



皆さんはピロリ菌をご存じでしょうか。ウォーレンらにより胃から発見された細菌で、彼らはこの発見で二〇〇五年にノーベル賞を受賞しました。日本人の三人に一人が感染しており、幼児期に感染後、慢性胃炎をきたし、さらに胃、十二指腸潰瘍や胃癌の原因となることがわかってい

ます。ピロリ菌感染が確認されても、これまでは潰瘍などの病気がないと除菌は行えませんでした。しかし最近胃炎のみでも除菌が可能となりました(胃力メラは行う必要があります)。除菌は抗菌薬と胃薬を一週間内服します。私自身子供のころから十二指腸潰瘍による腹痛に悩まされ、胃薬を飲むとよくなり、止めると痛くなることを繰り返してきました。しかしピロリ菌の除菌を行った後は腹痛が消え、以後痛みに悩まされることはなくなりました。

胃の調子が思わしくない方、胃癌が心配な方、家族に胃の病気の人がいる方は一度、専門医を受診し、ピロリ菌について調べてみてはいかがでしょうか。

消化器内科部長
高橋 澄雄

編集委員 河村 奈奈 安澤 美子 金子 絵理奈 佐野 恵太 山崎 香織
野上 弥生 小柳 良明 阿部 真由美 吉川 博子 荻澤 仁 大橋 利弘